



Title	北米におけるシェアード・プリント WEST 及び自動書庫：資料保存とスペース創出の取り組み
Author(s)	森石, みどり
Citation	大学の図書館. 2015, 34(3), p. 38-42
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51737
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

.....
特集：海外に目を向ける

北米におけるシェアード・プリント WEST 及び自動書庫：資料保存とス ペース創出の取り組み

森石 みどり

.....
1. はじめに

図書館の書庫狭隘化が叫ばれて久しい。加えて学修環境充実のため、アクティブラーニングエリアの創出も求められている。『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）』（H25.8）では、空間の確保のため、「自動書庫の導入」や「紙媒体の重複保存を抑制するシェアード・プリントの導入」が提案されている。国立大学図書館協会海外派遣事業により関連する調査を行う機会をいただいた¹⁾。

2. シェアード・プリント

シェアード・プリントとは、複数の図書館で冊子資料を共同保存することである。共同保存により保存コストを最小化し、スペースの回復を最大化する。一箇所で資料を保存する集中型と、複数の図書館にてそれぞれ資料を保存する分散型という2つのタイプに大き

く分けられる。

集中型シェアード・プリントでは、保存場所の書庫内に各館から重複しないように集められた資料が保存される。資料の所有権が代表館に移管されることも多い。似ているものとして、書庫スペースを共有するシェアード・ストレージがあるが、これは各館から移動される資料の重複は調整されない。基本的に資料の所有権も元の図書館のままであり、シェアード・プリントとは異なるものである。

また、分散型シェアード・プリントも、各機関が責任を持って紀要等の自機関発行物を保存し、他館では保存対象からはずすことができる分担保存とは異なる。シェアード・プリントが保存対象とする資料は、複数の館で重複して所蔵される一般的な資料である。重複の多い資料を共同保存することで、シェアード・プリント参加館におけるスペース回復の効果が大きくなる。

各国で取り組みが進んでいるが、北米では、シェアード・プリントプログラムのディレクターである PAPR²⁾ に約30のプログラムが登録されている。その中の WEST (Western Regional Storage Trust)³⁾ について、2014年9月2日～7日の日程で調査した。

ここでは、まず WEST の運営方式について紹介し、その後に訪問した WEST 参加館等について紹介していく。

3. WEST (Western Regional Storage Trust)

北米西部地域を中心に19の州から109の研究図書館が参加する雑誌バックナンバーの分散型シェアード・プリントプログラムである。その目的は1. 冊子資料を確実に保存すること、2. 参加館から冊子資料へのアクセスを提供すること、3. 参加館におけるスペースの回復を可能とすることの3つである。CDL (California Digital Library) を幹事館として、2011年から2014年までで15,000タイトル35万冊以上の保存を行っている。こ

これらの雑誌は、現時点では2035年まで保存されることが決まっている。

WESTでは、出版社や主題分野を区切らず、電子媒体の有無による消失可能性（リスク）の観点から保存する雑誌と保存ルールを決めている。特定出版社の雑誌を保存する他のプログラムでは、他社資料の保存に関しては新たなプログラムの立ち上げが必要になるが、WESTは同じ基準と作業サイクルの元、保存する雑誌の選定と保存を継続することが可能である。

具体的には、雑誌を大きく3つのタイプに分ける。出版社の電子ジャーナルまたはPorticoやLOCKSS等のアーカイブ保存があるもの、アグリゲータによる電子ジャーナルの提供はあるがアーカイブ保存はないもの、電子ジャーナルがない冊子資料を、それぞれアーカイブタイプBronze、Silver、Goldに区分する⁴⁾。

タイトル カテゴリ	リスク	アーカイブ タイプ	精査 レベル	保存 場所
冊子 のみ	高	Gold	号+状態	保存書 庫施設
冊子+アグリ ゲーター アーカイブなし	中	Silver	巻	図書館/ 保存書 庫施設
冊子+EJ/ アーカイブ	低	Bronze	なし	

図1 WESTのアーカイブタイプ⁵⁾

アーカイブタイプがBronzeの雑誌の場合、保存館は欠号を気にせず、空調が管理された図書館書庫等で保存を行うため、保存にかかる労力が少なく効率的である。これに対し、SilverやGoldの雑誌は、それぞれ巻レベル、号レベルで欠号の有無を確認し、他の参加館に寄贈を依頼して欠号を埋める努力を行う。Goldの雑誌はさらに、状態の確認（表紙が外れかけている、製本がきつい等）も行い、その情報を公開する。保存場所も、Goldの雑誌は書庫施設（後述）で保存することになっており、Silverの雑誌は、書庫施設を推奨す

るが、空調管理された書庫等でもよいとされている。消失のリスクが高い雑誌ほど、保存にかかる労力が大きく設定されている。

WESTでは保存館を、アーカイブホルダーと呼ぶ。欠号補充作業を行っている間はアーカイブビルダーと呼ばれる。約1年のサイクルの間に欠号が補充できなければ、その情報を公開する。

以下のようなサイクルで動いている。

- 1-3月 : OCLC MARC 所蔵データ提供(参加館)
- 4-5月 : 所蔵確認・分析 (CDL)
- 5-12月 : 保存雑誌・保存館選定 (委員会・CDL)
- 5-12月 : 欠号等確認・補充 (アーカイブビルダー)
- 1-3月 : 保存雑誌情報を、公開方針・基準に従って OCLC や PAPR に公開 (アーカイブホルダー)

サイクルの終わりには、保存した雑誌のリストがCDLから参加館に送付され、そのリストに従った除籍等の蔵書整理を可能としている。実際に除籍を行うかは各館の判断にまかされている。

また、サイクルの終わりにアーカイブホルダーが行う保存雑誌の情報公開も、シェアード・プリントにおいて必要な作業である。総合目録で他館の所蔵を頼みに自館の資料の整理を行うのでは、資料が確実に保存されとは限らない。このため、保存雑誌の保存巻号や、Silver以上の場合には欠号の巻号、Goldの場合には資料の状態といった情報を、OCLCのMARCやPAPRで公開している。MARCへはバッチ登録が可能で、同じファイルでPAPRにも登録できる⁶⁾。

WESTの運営費は参加館の規模に応じた参加費と、Andrew W. Mellon 財団の助成金によっている。アーカイブホルダーになると参加費は割引され、アーカイブビルダーには保存作業のため運営費が配分される。運営費

はその他、保存館を選定するため CRL⁷⁾ と共同開発したシステムの利用料等、プログラムの運営に必要な費用に充てられる。

以上のように WEST では、費用や必要な作業・労力といった年間のコストや、蔵書整理の予定など、目測が立てやすい仕組みとなっている。また、同じ方法で毎年、保存する雑誌や保存館の選定が可能であり、持続可能な保存プログラムである。

4. WEST 参加館訪問

訪問した WEST 参加館 3 館を紹介する。1 館は WEST で Gold の雑誌の保存場所として指定されている書庫施設であり、2 館は WEST 参加館の中で自動書庫を運用している図書館を見学した。WEST 参加館の中で自動書庫がある図書館は、調べた限りでは 5 館であり、多くはなかった⁸⁾。

4.1 カルフォルニア大学 NRLF (Northern Regional Library Facility)

カルフォルニア大学には南北それぞれに書庫施設があるが、北部の NRLF を見学した。

書庫施設とは、1. キャンパスから離れた、土地代の安い遠隔地にあり、2. 利用者の立ち入りを想定しないため、3. 資料保存に適した温湿度管理がされており、4. サイズ別配架によって効率的・高密度で資料が所蔵できる、といった特徴を備える施設である⁹⁾。NRLF では資料の保存環境を維持するため、書庫エリアの入り口すべてに小さな部屋があり、手前の扉が閉まらなと奥の扉を開けることが出来ない構造になっていた。北米では、10m ほどの高い書架にサイズ別のトレイを並べ、クレーンを使って職員が資料の出納を行うハーバードモデルの書庫施設が一般的ではあるが、見学した NRLF はそれ以前に建てられており、保存コストはより小さいとのことだった。NRLF の書架は天井の高さまでであるが、高くても 3m ほどであり、サイズ別

に分けられた資料を棚の奥と手前の 2 列で配架することで、多くの資料の収蔵を可能としていた。収蔵可能冊数は 740 万冊、現在 600 万冊ほど所蔵している。

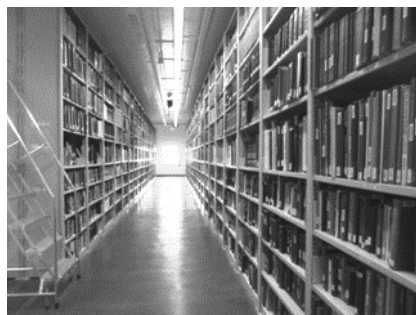


写真 1 NRLF 内部



写真 2 書架に奥と手前の 2 列配架

NRLF にはカルフォルニア大学の 10 キャンパスのうち、北に位置する 5 キャンパスから利用が少なくなった資料が移動されている。資料移動の際は、すでに NRLF 内に他キャンパスから移動されている資料がないか確認し、資料の重複がないようにしている。所蔵資料は年間 5 万件ほど利用があるが、うちアーカイブホルダーとして保存している雑誌は、100 件ほどの利用で多くはない。

見学中に、本学では自動書庫を建設するという話をしたところ、使用されない不要な資料を入庫するには、自動書庫は建設費もメンテナンス費も安くない、入庫資料はよく考えるように、という、保存コストが意識さ

れたアドバイスをいただいた。

4.2 ユタ州立大学 Merrill-Cazier Library

ユタ州立大学は学生数2万7千人、Merrill-Cazier Library の蔵書数は180万冊である。



写真3 ユタ州立大学 Merrill-Cazier Library

150万冊収蔵可能な自動書庫BARN (Borrower's Automated Retrieval Network) には、3段両面ブックトラック型の Shelf に、すべての雑誌と10年間貸出のない図書やマイクロフィルムなどを入庫していた。電子ジャーナルがあるため、雑誌の利用も多くないということだった。現在、54万冊の資料が入庫済である。雑誌は巻号順、図書は請求記号順に固定配架されており、出納する職員が見つけやすく、大変効率的とのことだった。

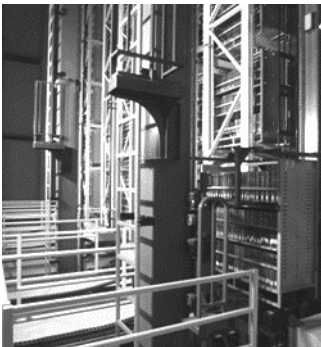


写真4 ユタ州立大学自動書庫BARN

自館のスペースの問題はないとしていたが、図書館共通の問題であるため、図書館協力としてWESTに参加していた。訪問時は

Bronze の雑誌のアーカイブホルダーになることを打診されており、コレクション担当者とシステム担当者の間で検討されていた。アーカイブホルダーは保存雑誌に関する情報を目録データに入力・公開等が必要であるが、大きな労力ではなく、打診されている雑誌はユタ州立大学として今後も保存する予定の資料であることから、おそらくアーカイブホルダーを承諾するということだった。

4.3 ユタ大学 The J. Willard Marriott Library

ユタ大学は学生数3万人、The J. Willard Marriott Library は、蔵書数350万冊、建物面積4万8千平米の大規模な図書館である。



写真5 ユタ大学
The J. Willard Marriott Library

2階中央に広々とした Knowledge Commons があり、収容冊数200万冊の自動書庫ARC (Automated Retrieval Center) を持つ。

Knowledge Commons には、250台以上のPCが並び、プリンタ、スキャナに加え、タブレット等の多種多様な機器が貸出用に準備されている。3Dプリンターの講習会も開催されるなど、非常に活発に利用されていた。貸出数の減少が顕著な一方で、図書館の利用は増加しており、今後もコモンズスペースの拡大が必要と考えられていた。

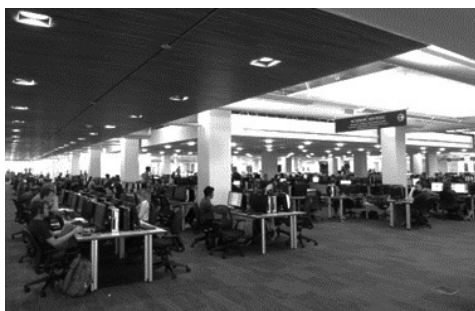


写真6 ユタ大学 Knowledge Commons

自動書庫には雑誌、利用の減った図書、特別コレクション、マイクロ資料やDVD等の冊子以外の資料を100万冊入庫している。この先も100万冊の入庫が可能だが、今後も館内書架スペースからコモンズスペースへ変換されると考えると十分な余裕とはされず、WESTへの協力に積極的だった。



写真7 ユタ大学自動書庫 ARC

ユタ大学では、大学の特徴的な分野の資料や、ユタ州で発行された新聞原紙等は、所蔵スペースを大きく占める資料であっても大切に保存する。一方、WESTの他の参加館で保存されている資料については、除籍等の整理を行い、さらに館内のスペース回復が考えられていた。

5. まとめ

各館の状況は異なっているが、「スペースの問題」が共通の課題として意識されていた。

スペースの創出が求められ蔵書整理が必要な際に、利用状況や電子媒体の有無、大学の使命、カリキュラム等を考え、適切な保存コストの保存方法を選択していた。保存コストは、通常の館内保存や自動書庫、遠隔の高密度書庫、シェアード・プリントの順に小さくなる。自動書庫の保存コストを考えると、『審議のまとめ』ではあわせて提案されているものの、自動書庫で保存される資料と、シェアード・プリントで保存される資料は、大学にとって異なる性質の資料といえる。

自動書庫等が整備され所蔵可能冊数が向上しても、今後も資料は増加を続け、さらなるアクティブラーニングスペースの拡大も考えられる。シェアード・プリントの取り組みは日本でも一部で始まっているが¹⁰⁾、より多くの機関で取り組みが必要に思う。日本には北米のような保存書庫施設がないことや、目録への保存情報の入力等、紹介した方法がそのまま運用できるわけではなく、他機関との調整にも時間がかかると予想される。しかし、各機関にてシェアード・プリントの必要性を認識し、適切な対応が取れるよう保存の枠組みを検討していかなければならないだろう。

参考文献

・小特集：電子資料と図書館，大学図書館研究 Vol. 95 (2012)

<http://www.jcul.jp/ojs/index.php/daitoken/issue/view/9>

・KEIO 大学図書館国際フォーラム 2014 大学図書館における冊子体コレクションの将来～日本版 Shared Print の可能性～（当日配布資料）

<http://www.lib.keio.ac.jp/jp/sharedprint/>

・国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報の利用促進と保存プロジェクトチーム報告，2014 <http://www.janul.jp/j/projects/si/gkjhokoku201406b.pdf>

・米国共同保存書庫視察報告書，名古屋大学，

2014 <http://hdl.handle.net/2237/20477>

注記

1) 渡航中のレポートを、国大図協海外派遣事業 Facebook に掲載している。

<https://www.facebook.com/januloversea>

2) PAPR (ペイパー) <http://papr.crledu/>

3) WEST <http://www.cdlib.org/services/west/>

4) WEST Collections Model

http://www.cdlib.org/services/west/docs/WESTCollectionsModel_documentfinal.docx

5) 図1は WEST Overview at ALA Annual 2011 p.11 を編集

http://www.cdlib.org/services/west/docs/WESTOverviewPresentation_2011_06.pdf

6) WEST: Access and Disclosure

<http://www.cdlib.org/services/west/services/>

7) Center for Research Libraries

<http://www.crledu/>

8) Payne, Lizanne. Library Storage Facilities and the Future of Print Collections in North

America. OCLC Programs and Research, 2007, p. 13.

9) 村西明日香. 北米における冊子体資料の共同管理の動向 / カレントアウェアネス. 2014, (319), CA1819, p. 26-31. <http://current.ndl.go.jp/ca1819>

10) 千葉大・お茶の水大・横浜国立大の三大学連携図書館プロジェクトや、名古屋大学の東海北陸地区大学間学術資源活用事業等がある。

※各 URL の最終アクセス 2015 年 2 月 26 日

(もりいし みどり／大阪大学)